

岐阜市校外研修小学校算数部会

1、単元名 買い物に行こう。…筆算で計算しよう

c (5年) d (6年) 乗法の筆算を覚えよう a

(4年) e・f (6年) 加法の筆算を覚えよう b (5年)

大きな数を数えよう

2、単元について

本単元では、個の学習内容に適した目標を定め、主なねらいとしている。

A 数と計算

【第 2 学年】

A(1)数の構成と表し方に関する数学的活動を通して、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

(ウ) 数を十や百を単位として見るなど、数の相対的な大きなについて理解すること。

A(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

(ア) 2 位数の加法の計算が、1 位数などについて基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

(ウ) 簡単な場合について、3 位数などの加法の計算の仕方を知ること。

【第 3 年】

A(3)乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項が身につけることができるように指導する。

(ア) 2 位数や 3 位数に 1 位数をかける計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

このようなねらいから、本単元では「複数の商品を買った時の金額を求めるときに筆算を使って計算すること」を学習していく。ここでのねらいは、生活の中でお金を支払うときには、合計金額を払うことで間違いが少なく、支払い易いことを感じていくことを目指す。

3、児童の実態

4 年	a	問題分を正しく読み取ることが難しい。150 まで数えられる。九九をすべて唱えることができる。 1 位数の足し算ができる。1 位数の筆算の仕方が分かる。自分のペースで学習を進める。
5 年	b	2 とび、5 とびで 100 まで数えられる。九九を 4 の段まで言える。提示された金額が疑似銭 (1 円、10 円、100 円) を使って用意できる。1 位数の筆算の仕方が分かる。
	c	問題文を正しく読み取ることが難しい。かけ算九九ができる。3 桁の数が分かる。1 位数の筆算の仕方が分かる。
6 年	d	一週間の半分登校。九九は概ね覚えている。お金の計算は 3 位数までできる。1 位数の筆算の仕方が分かる。
	e	不登校気味。集中力がない。九九の 100 マス計算では、3 の段くらいで手が動かなくなる。お金の計算はできる。1 位数の筆算の仕方が分かる。

f	毎日 10 時に登校。九九は 7 の段まで唱えられる。お金の計算はできるが、立式は難しい。
---	---

#### 4、研究テーマに関わって

##### (1) 単位時間における「数学的な見方・考え方」を働かせる数学的活動の具体化

数字を書くことと疑似銭を使って表すことを通し、数の大きさを実感させるようにする。正しく、早く計算する喜びを感じ、楽しみながら学習する。また、活動を日常生活で生かせるようにする。

##### (2) 「3つの見届ける」(実態の見届け・学習状況の見届け・定着の見届け)の在り方

実態の見届け …計算の到達度、活動への意欲・こだわりを加味し声かけする。

学習状況の見届け …個人追究の時間に、個別指導を行い、個の理解状況に応じた指導を行う。

定着状況を見届ける…実際に買い物ごっこを行い、一人一人に学習内容が身についているかを確認する。役割分担をした買い物ごっこを行うことで計算する力、疑似銭を正しく用意する力をお互い確認しながら楽しく学習を進めていく。

#### 5、本時のねらい・展開

	学習活動	A	B	C	D	E	F
本時のねらい	2 位数の筆算の仕方を覚えよう。	問題の意味を理解し、式を立てることができる。	疑似銭を使って、3つの数の計算ができる。	問題の意味が分かり、乗法の筆算を計算することができる。	問題の意味が分かり、乗法の筆算を計算することができる。	算数の授業を楽しみ、自主的に活動できる。	加法の計算が正しくできる。
問題		1 本 36 円の鉛筆 3 本と、1 個 36 円の消しゴムを 4 つ買います。いくら払えばよいでしょう。					
授業展開	1, 学習の準備 2, あいさつ 3, 本時の学習を確認する。	問題を読み、ノートに書く。 同じ値段の物がいくつあるのかを確認する。(カードを使って視覚的に見せる)					
	4, 立式する(発表)	$36+36+36=108$ $36+36+36+36=144$ $106+144=252$ 筆算で計算する。					
5, 個人追究	問題を読みながら操作させる。(カード・疑似銭・ホワイトボードの活用)	疑似銭の 10 円玉が複数枚あるので両替させる。	式に書く。 たし算の式、かけ算の式。	たし算で計算できたのを確認して、かけ算の式を考えさせる。筆算で計算する。  $36 \times 7 = 252$	たし算の式が書けているかを確認。 疑似銭を使って、いくらになるのか確認する。 筆算で計算をしてみる。		
6, 次の問題 お店屋さんごっこ	お客さん	お店屋さん		お客さん	お店屋さん		
	同じ金額の物を 2 つ買う。	同じ金額の物を 3 つ買う。	かけ算の筆算で計算する。	同じ金額の物を 3 つ買う。	たし算の筆算で計算する。		
7, 終わり 8, あいさつ	個々の頑張りを認め、次時の意欲付けをする。						

#### 6、まとめ

介助員と一緒に学習を進めているので、見届けが細かくできることがありがたい。しかし、その日の児童の体調によっても思うように学習が進まないこと、不登校傾向の児童が多く学習が積み重ならないこ

とがあるので、期間をあげ、繰り返し学習するように配慮している。また、問題文を読み正しく理解できるように、同じ言葉を繰り返し使い慣れることを大切にしたり、問題の内容を視覚的に分かり易くしたりしている。実際の生活に生かせるように疑似体験させることも学習意欲を高めることにつながっている。